

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年11月16日
【四半期会計期間】	第94期第2四半期(自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)
【会社名】	昭和化学工業株式会社
【英訳名】	Showa Chemical Industry Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 石橋 健藏
【本店の所在の場所】	東京都港区赤坂2丁目14番32号
【電話番号】	03(5575)6300番
【事務連絡者氏名】	総務企画部長 笹元 岳
【最寄りの連絡場所】	東京都港区赤坂2丁目14番32号
【電話番号】	03(5575)6300番
【事務連絡者氏名】	総務企画部長 笹元 岳
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 昭和化学工業株式会社 大阪オフィス (大阪市北区堂山町1番5号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第93期 第2四半期連結 累計期間	第94期 第2四半期連結 累計期間	第93期
会計期間	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2020年4月1日 至 2020年9月30日	自 2019年4月1日 至 2020年3月31日
売上高 (千円)	4,348,573	4,065,209	8,205,626
経常利益 (千円)	277,885	331,226	550,891
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	167,621	195,490	370,131
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	144,148	298,778	278,619
純資産額 (千円)	5,244,908	5,606,834	5,360,916
総資産額 (千円)	12,157,914	12,236,670	11,758,936
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	15.82	18.50	34.97
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	43.0	45.8	45.6
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	303,005	390,285	726,328
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	138,985	95,246	386,706
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	115,081	22,251	51,783
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	1,711,608	2,264,778	1,950,631

回次	第93期 第2四半期連結 会計期間	第94期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日	自 2020年7月1日 至 2020年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	8.86	12.43

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響につきましては、ワクチン開発が途上であることにより、収束時期の予想が難しい状況が続いております。

当該リスクへの対応につきまして、当社は「新型コロナウイルス感染症対策委員会」にて、お客様及び従業員の安全を最優先事項と捉え感染拡大を防ぐため、就労時などのマスク着用や手指消毒の徹底、ウェブ会議の推奨、不要不急の国内外出張並びに工場見学その他各種イベントの開催または参加の見合わせ、感染拡大の影響が特に甚大な地域における社員の在宅勤務の励行など、当社グループの業績及び財政状況などに対する影響の低減につながるあらゆる策を継続しております。

現状、当社グループにおきまして、製造設備やサプライチェーン関連に対する大きな影響はなく事業を継続しておりますが、プール施設の稼働停止の長期化により化成品事業など、業績に甚大な影響が出ております。

当該リスクの影響は今後も長期化すると予想しておりますが、ニューノーマルといわれる新たな価値観や行動様式、気候変動社会への対応など、当社グループを取り巻く経営環境の変化に迅速に対応しながら、質の高い商品・サービスの提供を続けるという使命を実現すべく、引き続き当該リスクの動向に注視し、適時適切な対応を継続してまいります。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、各種政策の効果による景気持ち直しの兆しがみられるものの、感染拡大に収束の目処が立たず、先行き不透明な状況が依然として続いております。

当業界におきましては、コロナ禍におけるプール施設休止の影響を受けるなど、国内需要は厳しい状況で推移しております。

このような経営環境の中、当社グループではテレワーク中心の業務活動に切り替えるなど、同感染症の拡大防止に配慮しつつ、売上目標達成と利益確保に尽力しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、主に国内向け製品の出荷減の影響により売上高40億65百万円（前年同期比6.5%減）となりました。利益面では、全社規模でのコスト削減の実施に加え、在宅勤務やオンラインによる営業活動を積極的に推進したことに伴う関連経費の抑制、並びに「持分法による投資利益」の増加により経常利益3億31百万円（同19.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益1億95百万円（同16.6%増）となりました。

なお、当社グループは単一セグメントのため、製品別の業績を記載すると次のとおりであります。

濾過助剤

当期間におきましては、海外市場での売上が増加したものの、国内市場での清涼飲料向け製品並びにプール用製品の売上が低迷しました。この結果、売上高は24億37百万円（前年同期比0.2%減）となりました。

建材・充填材

当期間におきましては、海外市場での売上が増加しましたが、国内市場低迷の影響を受け、住宅用建材向け製品及び各種充填材向け製品の売上が減少しました。この結果、売上高は6億27百万円（同10.1%減）となりました。

化成品

当期間におきましては、浄化槽用塩素剤の売上が増加しましたが、プール施設休止の影響によりプール用塩素剤の売上が大幅に減少しました。この結果、売上高は6億31百万円（同29.5%減）となりました。

その他の製品

当期間におきましては、各種化学品向け製品の売上が減少しましたが、浴室関連機器及び防災用品が売上に大きく貢献しました。この結果、売上高は3億67百万円（同18.4%増）となりました。

財政状態

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ4億77百万円増加し、122億36百万円となりました。主な増加は、現金及び預金3億13百万円、受取手形及び売掛金1億81百万円であります。

負債は、前連結会計年度末に比べ2億31百万円増加し、66億29百万円となりました。主な増加は、支払手形及び買掛金1億72百万円、短期借入金1億57百万円であり、主な減少は、長期借入金82百万円であります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ2億45百万円増加し、56億6百万円となりました。主な増加は、親会社株主に帰属する四半期純利益1億95百万円、その他有価証券評価差額金1億17百万円であり、主な減少は、利益剰余金の配当金の支払い152百万円であります。

なお、自己資本比率は、前連結会計年度末の45.6%から45.8%となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末より3億14百万円増加し、22億64百万円となりました。

当連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、3億90百万円となりました。

これは、主に税金等調整前四半期純利益2億91百万円、減価償却費1億41百万円、仕入債務の増加1億57百万円に対し、売上債権の増加1億81百万円、法人税等の支払額81百万円があったことによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、95百万円となりました。

これは、主に有形固定資産の取得による支出73百万円があったことによります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、22百万円となりました。

これは、主に社債の発行による収入1億96百万円、短期借入金の純増減額の増加1億57百万円に対し、長期借入金の返済による支出1億35百万円、社債の償還による支出1億40百万円、配当金の支払額52百万円があったことによります。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動費は77百万円であります。なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった主要な設備の新設、休止、大規模改修、除却、売却等について、当第2四半期連結累計期間に著しい変動があったものは次のとおりであります。

なお、下記金額に消費税等は含んでおりません。

実施を次年度以降に延期した案件

提出会社

事業所 (所在地)	2020年3月末投資予定金額		設備の主な内容	実施時期
	総額(千円)	既支払額(千円)		
秋田工場 (秋田県北秋田市)	30,000	-	製品倉庫拡張工事一式	次年度以降未定

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	32,000,000
計	32,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年11月16日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	11,979,000	11,979,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 100株
計	11,979,000	11,979,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高(千円)
2020年7月1日～ 2020年9月30日	-	11,979,000	-	598,950	-	527,529

(5)【大株主の状況】

2020年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
シグマ株式会社	東京都目黒区上目黒1丁目8番10号	1,938	17.63
石橋 健藏	東京都目黒区	1,419	12.91
公益財団法人石橋奨学会	東京都目黒区碑文谷4丁目24番15号	1,000	9.10
朝日生命保険相互会社	東京都新宿区四谷1丁目6番1号	770	7.01
白山工業株式会社	東京都港区赤坂2丁目14番32号	426	3.88
昭和化学工業取引先持株会	東京都港区赤坂2丁目14番32号	396	3.61
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	390	3.55
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5番5号	331	3.01
石橋 敬子	東京都品川区	316	2.88
北沢産業株式会社	東京都渋谷区東2丁目23番10号	255	2.32
計	-	7,242	65.89

(注) 1. 上記の他、自己株式が987千株あります。

2. 上記所有株式の他、2020年10月31日現在の役員持株会での持分として、石橋健藏氏が24,515株を所有しております。

(6)【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,413,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,561,800	105,618	-
単元未満株式	普通株式 3,400	-	-
発行済株式総数	11,979,000	-	-
総株主の議決権	-	105,618	-

(注)「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式5株が含まれております。

【自己株式等】

2020年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
昭和化学工業株式会社	東京都港区赤坂2丁目14番32号	987,100	-	987,100	8.24
白山工業株式会社	東京都港区赤坂2丁目14番32号	426,700	-	426,700	3.56
計	-	1,413,800	-	1,413,800	11.80

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、八重洲監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,291,652	2,605,630
受取手形及び売掛金	2,349,840	2,531,696
商品及び製品	293,335	307,389
仕掛品	440,762	461,478
原材料及び貯蔵品	158,407	176,375
その他	133,365	68,530
貸倒引当金	4,275	1,733
流動資産合計	5,663,088	6,149,367
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	948,569	919,620
機械装置及び運搬具(純額)	718,545	675,694
土地及び原料用地(純額)	1,111,254	1,106,767
その他(純額)	92,707	78,741
有形固定資産合計	2,871,076	2,780,823
無形固定資産		
その他	45,333	42,651
無形固定資産合計	45,333	42,651
投資その他の資産		
投資有価証券	2,497,536	2,624,567
長期貸付金	65,430	64,580
繰延税金資産	154,005	117,644
その他	543,644	542,011
貸倒引当金	81,178	84,977
投資その他の資産合計	3,179,438	3,263,827
固定資産合計	6,095,847	6,087,302
資産合計	11,758,936	12,236,670

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	825,292	997,714
短期借入金	2,377,909	2,534,933
1年内償還予定の社債	260,000	280,000
1年内返済予定の長期借入金	243,976	191,476
未払法人税等	83,740	118,102
賞与引当金	43,449	47,832
その他	386,347	322,888
流動負債合計	4,220,714	4,492,948
固定負債		
社債	460,000	500,000
長期借入金	674,902	592,246
繰延税金負債	74,820	53,289
役員退職慰労引当金	18,998	18,998
退職給付に係る負債	833,584	861,768
その他	115,000	110,585
固定負債合計	2,177,305	2,136,887
負債合計	6,398,020	6,629,836
純資産の部		
株主資本		
資本金	598,950	598,950
資本剰余金	576,896	576,896
利益剰余金	4,121,948	4,264,612
自己株式	435,449	435,483
株主資本合計	4,862,345	5,004,974
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	491,715	609,643
土地再評価差額金	11,206	11,208
為替換算調整勘定	16,242	1,677
その他の包括利益累計額合計	496,751	600,112
非支配株主持分	1,820	1,747
純資産合計	5,360,916	5,606,834
負債純資産合計	11,758,936	12,236,670

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	4,348,573	4,065,209
売上原価	3,021,592	2,775,407
売上総利益	1,326,981	1,289,801
販売費及び一般管理費	1,102,503	1,039,085
営業利益	224,477	250,716
営業外収益		
受取利息及び配当金	27,276	23,933
持分法による投資利益	16,766	32,540
固定資産賃貸料	27,057	26,564
売電収入	16,203	16,363
その他	13,847	25,654
営業外収益合計	101,151	125,056
営業外費用		
支払利息	20,831	20,429
売電費用	10,073	9,897
その他	16,837	14,218
営業外費用合計	47,743	44,546
経常利益	277,885	331,226
特別利益		
有形固定資産売却益	229	180
特別利益合計	229	180
特別損失		
災害による損失	21,187	-
固定資産除却損	13,045	485
投資有価証券評価損	-	29,361
関係会社株式評価損	-	9,999
特別損失合計	34,233	39,847
税金等調整前四半期純利益	243,882	291,559
法人税、住民税及び事業税	83,027	114,783
法人税等調整額	7,848	18,629
法人税等合計	75,178	96,153
四半期純利益	168,704	195,406
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	1,082	83
親会社株主に帰属する四半期純利益	167,621	195,490

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	168,704	195,406
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,582	118,490
為替換算調整勘定	1,836	3,142
持分法適用会社に対する持分相当額	18,136	11,975
その他の包括利益合計	24,555	103,372
四半期包括利益	144,148	298,778
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	143,073	298,851
非支配株主に係る四半期包括利益	1,075	72

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	243,882	291,559
減価償却費	141,178	141,412
貸倒引当金の増減額(は減少)	2,533	1,257
賞与引当金の増減額(は減少)	3,320	4,383
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	11,415	28,184
受取利息及び受取配当金	27,276	23,933
支払利息	20,831	20,429
災害による損失	21,187	-
投資有価証券評価損益(は益)	-	29,361
関係会社株式評価損	-	9,999
持分法による投資損益(は益)	16,766	32,540
固定資産除却損	13,045	485
有形固定資産売却損益(は益)	229	180
売上債権の増減額(は増加)	182,509	181,856
たな卸資産の増減額(は増加)	12,838	52,738
仕入債務の増減額(は減少)	177,228	157,212
その他	29,304	71,428
小計	360,631	464,466
利息及び配当金の受取額	34,345	31,005
利息の支払額	23,608	23,223
法人税等の支払額	68,363	81,962
営業活動によるキャッシュ・フロー	303,005	390,285
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	248,000	230,000
定期預金の払戻による収入	248,085	230,169
有形固定資産の取得による支出	91,770	73,312
有形固定資産の売却による収入	230	180
無形固定資産の取得による支出	11,269	2,461
投資有価証券の取得による支出	925	950
長期貸付金の回収による収入	850	850
その他	36,185	19,721
投資活動によるキャッシュ・フロー	138,985	95,246
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	142,489	157,024
長期借入れによる収入	300,000	-
長期借入金の返済による支出	277,738	135,156
社債の発行による収入	196,881	196,981
社債の償還による支出	130,000	140,000
リース債務の返済による支出	8,909	3,736
自己株式の取得による支出	-	34
配当金の支払額	52,826	52,826
財務活動によるキャッシュ・フロー	115,081	22,251
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,836	3,142
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	47,101	314,146
現金及び現金同等物の期首残高	1,664,506	1,950,631
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,711,608	1,264,778

【注記事項】

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する見積り)

新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定及び会計上の見積りについては、前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した内容から重要な変更はありません。

なお、会計上の見積りについては、入手可能な情報を勘案し合理的に判断しておりますが、実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
発送費	442,017千円	435,467千円
貸倒引当金繰入額	45千円	526千円
賞与引当金繰入額	26,139千円	26,044千円
退職給付費用	21,017千円	18,961千円
減価償却費	23,562千円	31,135千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
現金及び預金勘定	2,062,194千円	2,605,630千円
預入期間が3か月を超える定期預金	350,586千円	340,851千円
現金及び現金同等物	1,711,608千円	2,264,778千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	54,959	5	2019年3月31日	2019年6月28日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年6月26日 定時株主総会	普通株式	54,959	5	2020年3月31日	2020年6月29日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)

当社グループは単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	15円82銭	18円50銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	167,621	195,490
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益金額(千円)	167,621	195,490
普通株式の期中平均株式数(千株)	10,593	10,569

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年11月13日

昭和化学工業株式会社

取締役会 御中

八重洲監査法人

東京都千代田区

代表社員 公認会計士 武田 勇蔵 印
業務執行社員

業務執行社員 公認会計士 井口 智弘 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている昭和化学工業株式会社の2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、昭和化学工業株式会社及び連結子会社の2020年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。